

# 創立期支援者のおはなし

国士館は、教育の趣旨に賛同するさまざまな人々の支援によって支えられてきました。創立期の支援者の一端を1枚の写真からみてみましょう。

## 国士館を支えた人々 — 創立期の長老たち

大正10年に発足した国士館維持委員会には、各界の名士が集い多方面で国士館を支援します。なかでも、創立期における最大の支援者たちが、一堂に会した1枚の写真がここに残っています。なお、写真左奥の建物は、北区飛鳥山公園内に現存する渋沢栄一郎の晩香廬(バンガロー)です。



1926(大正15)年6月3日 国士館完成長老懇談会  
於渋沢栄一郎

### ① 頭山 満 (とうやま みつる) 1855-1944

福岡県出身。西欧の大国に対抗したアジア主義を唱え、政治団体「玄洋社」を創設し、民間の立場から各方面に多大な影響を与えた。同郷の縁から柴田徳次郎を助け、国士館創立時より募金活動のほか多方面にわたり支援を行った。

### ③ 渋沢 栄一 (しぶさわ えいいち) 1840-1931

埼玉県出身。日本資本主義の父といわれる実業家。第一国立銀行をはじめ多数の企業や学校の創設と発展に尽力。自邸での国士館維持委員会の開催を期に参画し、多額の寄付に加え、委員会の場として邸宅を提供するなど国士館を支えた。

### ② 野田 卯太郎 (の だ う た ろ う) 1853-1927

福岡県出身。号を大塊。通信大臣や商工大臣などを歴任した政治家。柴田徳次郎が、上京後に牛乳配達などで苦学した時から個人的に支援。国士館創立後は、顧問として中学校や専門学校の設置に尽力。大講堂内には、自筆の蘭図が残る。

### ④ 徳富 猪一郎 (とくとみ い ち ろ う) (蘇峰) 1863-1957

熊本県出身。号を蘇峰。『国民新聞』などを創刊したジャーナリスト、評論家。生涯にわたって執筆活動を行った。国士館の創立時より講師を務め、歴史の講義を担当するなど、長く国士館を支えた。作家の徳富蘆花は、実弟。